

特集 豪快長竿両ダンゴ

“新潟の巨星”小柳康秀大暴れ!!
18尺浅ダナ in 友部湯崎湖。軽系両ダンゴで数を釣りまくり、
締めはペレ宙でキロアップを連発…!!

19 バリバス・グランカップへらトーナメント2006in富里乃堰

壮絶、両ウドンの打ち合い…!! 荒れに荒れた今年一発目の“メジャー”を完全レポート。そして…
NEWチャンピオン太田武敏の優勝パターンを追取材で速攻公開!

26 田辺哲男&小林恭之の間答無用へらツアー
《Vol.8》NEO-HERA PRO LEAGUE 2006 第一戦 羽生吉浩

35 中澤 岳 フィールド真っ向勝負
《Vol.8》HERA-1 GP in 隠れ谷池

40 石井旭舟 へらぶな浪漫街道
《第四十三回》爽快、豪快。中綱湖 木崎湖

48 小池忠教 K'S FORM & STYLE
《Vol.6》両ダンゴの基本(野釣り編) 千代田湖

54 稲毛利夫 野釣り場地獄巡り
《Vol.7》師匠、野池天国へ!! (栃木県・那須IC付近の野池)

★AREA REPORT

58,66	山中湖(山梨県)	本誌・伊藤洋一
60,68	滝波ダム(福井県)	山本一朗
61,69	風越池(愛知県)	後藤 誠
62,70	水藻FC(大阪府)	前田誠志
63,71	油木ダム(福岡県)	河口正伸

134 竹とともに生きる。
《第34回》「夢集」阪部道春

137 棚網 久の我流
《第六回》驚愕! 桧原湖(福島県)で巨べらラッシュ!!

143 第20回 マルキューモニター懇親会 椎の木湖

144 シマノへら釣り競技会 野釣りで一本勝負!! in 三名湖

145 杉山達也のSUPER SPLASH!
《ROUND.8》爽快! 深宙の夏 三名湖

151 戸張 誠 関べら戦記
《第六回》6月例会 戸面原ダム “苦戦”

156 吉川ひとみのあっちこっちそっち♡
《Vol.7》ひとピー、新潟の釣りを満喫!?
ショップ:本間釣具 黒埼店 釣り場:大通川

194 岡田 清 Deep Side Angle
《Vol.33》【固形的ペレ底】 隼人大池(埼玉県)

200 北川穂積 西の交友録
《第8回》ゲスト:石井氏 釣り場:魚切ダム(広島県)

204 釣りの帰りに寄りたいお店
《file.19》埼玉県鴻巣市【北海道ラーメン】の塩バターラーメン

206 釣果予想クイズ

208 フィッシングレディ
《今月のレディ》木島満江さん 逆井HC

p.165~
**釣り場割引
クーポン券**
野田幸手園 椎の木湖
清遊湖 谷和原大沼 上尾園
F.A吉羽園 谷養魚場 将監
柳生FP 筑波白水湖 泉堰
逆井HC 友部湯崎湖
水藻FC 甲南へらの池
三和新池 狭山HC 新座LC
川越FC 府中HC 当麻池
多賀釣池 芦田湖水光園
鳥羽井沼 朝日池 大上へら池
霧の沼 小川つり堀園
清川つくしFC
千代田湖・舟宿 千和
精進湖・釣宿 金風荘
西湖・釣舟 白根
西湖・釣り宿 丸美
西湖・釣り宿 青木ヶ原



▶今月の表紙
棚網 久&桧原湖の巨べら photo:本誌・諸
小柳康秀in友部湯崎湖 photo:本誌・里
layout:本誌・里

へら鮒 8月号 Aug.2006 No.488

- 75 へら鮒釣り 超基本講座【道具作り編】
《第20回》玉網塗り直し 前編
- 81 ガチンコ道場
《第8回》木村浩重&児玉喜明特集!!
- 88 都祭義晃 カリスマ伝説
《Vol.8》G杯争奪全日本へらブナ釣り選手権 北関東地区予選
- 92 石川裕治が伝説する王者の法則
《第8回》食い渋りを克服せよ!! 精進湖
- 99 江成公隆のトーナメント、復活への道。
《Vol.50》ヒゲ接待
- 106 すずめつつ へら鮒調査隊! 天野正由
《調査ファイル08》50cmを見せてちょ~だい3 白樺湖&田川浦湖&諏訪湖&榛名湖
- 110 水辺のプラネタリウム 吉本亜土
《今月の星空》「井戸替え」
- 114 最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 漢タカハシ
《第四十二話》潜入ミステリー! 廃墟でへらを釣る!?

- 119 へら鮒ブログ 西田美明
《第8回》「スレは食いではない!」
- 122 母なる湖…琵琶湖べらを釣れ! 南元彦
《第15回》スッコケ!?
- 126 野田幸手園新聞
- 162 ワクワク管理釣り場情報
- 171 小売店情報
- ★へら鮒BOX
177 里ちゃんの新米編集長雑記
178 情報発信基地
182 ボイス
187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己
188 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト
189 コラム『紀州“想いの竹”のものがたり』 中峯伸行
190 プレゼント発表
191 広告索引
192 編集後記

STAFF

- Producer
根本百合子
- Editor in chief
田中里史
- Editor
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一
- Planner
〈オフィス・えび〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の

トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！～いよいよ再発刊！～ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

江成公隆。連載50回目にして、僕はこの男の扱い方を間違えていたことに気付いた。そう、この男、こっちが考えていた以上に「褒められて伸びるタイプ」だったのだ！ドン底に突き落として這い上がってくるような、そんなタマではなかったのである…。この男を再び全国大会の檜舞台に上げるためには、褒めて褒めて褒めまくり、勘違いさせて乗せてしまわなければならないのだ。(ホントかよ?) その方が結果も良くなるようだし、原稿も早くなるはず…。

6月8日、平日の椎の木湖。

言葉で持ち上げ、アイスコーヒーをオゴリ、岡田さん風の写真を撮ってあげ…

何やらヒゲセットに自信を深めているご様子なので、
ばっちり「ヒゲ接待」してきましたよん！

by 里ちゃん



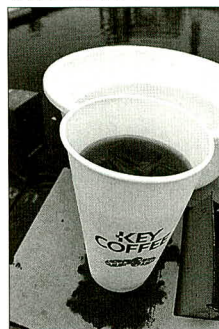
稲毛師匠も「イナセッタイ」!?

〈Vol.50〉

ヒゲ接待

「一歩進んで二歩下がる!?!」

▶Deep～風撮影セッタイ
▼カフェセッタイ



竿頭?

取材日は、6月8日の下平日。そして取材場所は椎の木湖。ヒゲの練習をしたいという僕のワガママを通じたカタチだが、なんとも贅沢な設定である。

「アニキ、100kg釣ったら表紙ですから」

と、里ちゃん。まったくワンパターンな男だ。

直近の「やや不調」という情報を知っているの発言である。

「せめて竿頭にしてくれたいまへ」

「お？ 鼻息荒いですね〜！ ま、いいですよ。そのかわりわたくしが全力で阻止しますよ。ハハハ〜♡」

「何だとお！ 取材なんだから持ち上げてナンボじゃないのかよ？ おもいつきりラックスしやがってよお…」

事実、近年の里ちゃんは悔れない。今年も五度目のG杯予選通過を果たした。「門前の小僧習わぬ経を読む」いや、習いまくりで「頭でっかち」の里ちゃんだが、デカくなりすぎてさすがに腕にも溢れ出したといったところか。

とくにヒゲセットは里ちゃんの十八番。先月たった一回で自信を付けてしまった僕にとって、今回の目標となる好都合なライバルではある。「アニキ、昨日の頭は70kgなんですけど、その下からは40kg台なんです。ですって70kgはまあ、ちよつと除外して、とりあえず40kgがひとつの目安ですかね」

「何の目安だよ。表紙のわ？」
「ハア？ アニキのヒゲセットの真贋の話ですよ！ 再開2回目のヒゲにして40kg釣ったらとりあえず及第点かな、と」

「了解。じゃあキャンフンと言わせちゃおっかな〜」
「キャンフンは古いっすねえ…。ただやつぱり平

日ですし、今日こそは活性が高くて逆に釣りづらいかもしれませんけどね」

「どうかな？ 活性が高くて釣りづらいっていうのは、日頃からあんまり意識しない方がいいけど、特にヒゲセットにおいては全く意識しない方がいいという結論に至ったんでね。ついでにこないだ」

「ほう…すいぶんと今日は吠えますね。ま、それでこそアニキっすよ。えな理論全開でブツギギツちやって下さいまし、社長！」

取材当日の朝、釣りの準備をしながら僕は、確かに吠えていた。結果として、僕は竿頭も40kgも達成出来ないことになるのだが、行きの中からの高揚感はずいぶん振りだつた。遊びとは本来そういうものである筈だし、「行きたくなえなあ…」なんて感じながらハンドルを握っているのは安全運転に差し支える。

寝ずの釣行が続いていた僕だが、今回はバツチリ寝た。ものごとをポジティブに捉えるには、睡眠は大切であると、あらためて実感。…とは言うものの、実は前の晩は寝るつもりはなかった。仕事から帰宅後、クラッシュした僕のMの復旧作業をしなければならなかったからである(アニキのブログ参照)。僕と女房のMでは、どうやっても認識されなかったハードディスクだが、最後の頼みと子供部屋のMに僕のMのハードディスクを繋ぎ、なんとか認識されたところから僕の記憶はない…。機械とは面白いもので、これだけハイテクの世界の中になっても相性というものがあつた。いや、ちゃんと突き詰めれば子供用のMのしか認識されない理由があるのだろうが、そんなことは僕にとってはどうでもいい…読者の皆さんにとってもどうでもいいやな。

取材当日の朝4時20分。里ちゃんからの着信で目が覚めた。5時半に現場で待ち合わせの約束であつたので、まだ十分に時間はあつた。

しかし里ちゃんは先を読んでいた。横浜から椎の木湖までは片道100kg強。入場時間の6時から逆算すると、常識的な運転ではギリギリのタイムイングである。が、寝るつもりは全くなかった僕は、まだ釣りの準備(エサや竿を入れ替えるくらいだが)をしていなかった。さらに、眼前には散らかすだけ散らかした子供部屋が。1歳と5歳児の前に開腹されたMBOをそのまま残して出かけるのは危険すぎる。里ちゃんには悪いがシャワーも浴びたいし、で、結局家を出たのは5時をまわった。

日頃車に乗って仕事をしているという自覚が全く感じられないような超・安全運転の果て、僕の愛車は6時ジャストに椎の木湖の駐車場に滑り込んだ。燃料を激しく消費し、環境には決して良いとは言えないが、「どーせ経費だし♡ これで竿頭を狙えるってもんだぜー」

最高釣果を目指すなら、朝イチの遅れはイタイ。それだけしか頭のない僕であった。反省…ところが、僕の大運刻を想定し、余裕たっぷり家を出た里ちゃんは「当然」駐車場にはまだおらず、エサ打ち開始は結局7時をまわった。ちえっ！

矛盾?

『ダンコ』で60kg釣れるなら、セツトで80kgを目指す

セツト釣りの地位向上という使命感に燃え、華々しく「へら鮎」にデビューした当時の岡田君の名ゼリフである。このゼリフは里ちゃんのハートをガッチリ捕らえ、現在でも度々デューブサイドアングルで使われている(先月号でも使われた)。このゼリフはセツト全般に於いての話と捉えられがちだが、記事をよく読みかえすと、実はヒゲゼツトの時に使われ

ていることが多いと気付いていた読者はどれくらいいたのだろうか。この意味をもう一度考えてみるところから、僕のヒゲゼツトの完全理解は始まる気がした。

先月号の僕の記事で、僕と岡田君の記事両方を読むとヒゲの達人になれるとシメた里ちゃん。誉められるのは嬉しいが、責任も重大である。僕は目を皿にして岡田君の記事を読んだ。と、おやおや?一見ちょっと矛盾しそうな部分もあるし、岡田君の名ゼリフについても「ヒゲ限定」でいいのかどうかの確認もしたい。仕込みで忙しい時間かと思ったが、構わず携帯を手にとった。

「忙しいところ」メンね。スバリ本題。里ちゃんが好きな岡田君のゼリフあんなじゃん?ダンコで60ならセツトで80…ってヤツ。アレってヒゲ限定っていう理解でOKかな?」

「限定ではないですけど、一部の例外を除いてヒゲゼツトって捉えていいと思います。基本的にはバラケるエサへの反応が鈍いので固形のゼツトになるわけですから、つまりシブいわけです。そんな場合ではそもそもダンコで80kg自体が無理ですよ」

「例外が気になるな?」
「ですよ。例えば羽生吉沼なんかだと、固形への反応が一年中いいんですよ。この話は、江成君の連載の最初の時に言いましたし、たしか江成君も記事にしていたはずですよ(笑)。僕が思うには、日頃与えるエサのタイプとかで変わってくる部分があるんじゃないかと思えますね」

「了解。じゃ、次は感嘆水のくだり。僕は『即ジメ』っていうふうで紹介したんでやり方は少し違うんだけど、僕はやる気も起きないって書いたのに、岡田君は多用してるってことはおかしいじゃないか、と。ある読者の方から突っ込まれちゃったのよ」

「ああ、それも読みました。でも別に、ヒゲを固形として捉えようってわけじゃないですから、江成君の記事とは全く矛盾しないと思いますよ」

「感嘆水はヒゲのハリ抜けを防ぐ意味がメインだってことだよ。エサ持ちを考えての行為だと。クワセとして意識してないってことでもいいんだよ」

「その辺も微妙な表現ですわね。いつも言ってますけど、どっち食ってもいいって感覚だと誤解されるのが困るんですよ。固形として意識してないって言い換えた方がいいのかな?」

「うんうん。難しいよね。セツト釣りを組み立てるわけだから、固形だろうがヒゲだろうが当然キチンと下バリを食わせようって姿勢でなければ釣りにならないっていうのは基本なんだよね。ただ、ヒゲに限って言えば、クワセだぞってアピールしようという意識は薄いつことでしょ?水中の実験の効果は分からないけれど、釣り人側の意識として、下バリで追わせるって意識する瞬間が間違っても「ない」ってことだよ」

「そのうち(笑)。へら釣りにデュアンスを伝えるのがものすごく難しいですよ」

「難しいよ〜。今回だつて、一本バリのダンコとして一生懸命エサを合わせておいて、下バリはオマケ」という感覚で上バリで釣っていくのは許せないけど、「バラケの芯ではなく粒子を食わせる努力(ダンコ)で言えば芯にアタれないやボケの状態を、へらバラケの拡散範囲のコントロール=エサ合わせで作り出し、へらをやや速さげ、粒子とじっくりして、ゲを食べてもらおうという意識」をしていて、それでもとびきり活性の高いへらが上バリ入ってくるのはオッキーって話でしょ?端から見れば同じことをやっているようにしか見えないし、そのバラケが合ってるかどうか

かなんて、本当のところは誰にもわからないんだよね。正解は結果論でしかないんだからさ。いろんな名人がいろんなことを言うじゃない?もちろん有り難いアドバイスとして参考にはしたいけど、生き物相手の遊びに本来正解はないんだから」

「どうですか。だから結局その人の意識の問題になってくるんじゃないですか?自己満足ってことですよ(笑)」

もう少し喋っていたかったが、新しい店を立ち上げたばかりの岡田君。電話の向こうはかなり忙しそうだった。ここから先は自分で考えなければならぬ。しかし、岡田君と僕とのヒゲゼツトにおける基本的な認識の間に矛盾が全くないことは確認出来た。

ウマの話。

『ダンコ』で60kg釣れるなら、セツトで80kgを目指す

何度も引っぱり出す、実はこのゼリフはとんでもないゼリフである。何がとんでもないかと言えば、「セツト釣りの使い時に対する、一般的な認識」を考えてみたらすぐ分かる。基本的にセツト釣りは、「ダンコ」へ食い切れないうへらを狙うための釣り」ではなかったか。へらの大型化で60kgの枚数が昔より減ったとはいえ、60kgが「シブい」と言えるのか?…言えないと僕は思う。「大釣りの部類に入る」と受け止めるかどうかはともかく、誰に聞いたって「シブってからのセツト」という概念では、考えられない数字の苦だ。前項の岡田君と僕との会話の中で、「ダンコ」を超えるセツトとは、どうやらシブってからのセツトではなさそうだ」ということは、何となく感じていただけたと思うが、もしこの会話を目にして

いなかっただらうだろう。「シブい地合にもかわらす」、「あの岡田さんだから可能」な釣果と受け止めてしまえばいいか。その結果、「自分の力量を遥かにオーバーフロー」と認識。溢れた分は知らなかったこととして流す…これでは進歩はない。諦めてしまつては未来がないのだ。僕は誰にでもチャンスがあると信じていた。

本人の努力は当然あるだろうが、残念ながら岡田君は天才である。しかし魔術師ではない。そこにはきちんとしたメカがある苦なのだ。凡人には使いこなせない方程式であったとしても、知る権利はあるし、結果が出なくとも知的好奇心を充たせるだけで幸せだと感じるのは僕だけだろうか。

「ヒゲセットは、固形セットよりも活性が高い地合で選択する釣り方」ということは、一般に広く認知されていると思う。これは真冬にヒゲセットを打つ釣り人が皆無と言っていい状況から明らかだ。多数決は必ずしも正しい答えを導き出すとは言えないが、生きものを相手にする遊びでは大いに参考になる。不特定多数の釣り人が得たデータ、すなわち経験則。理論は後付けではない。

『最初にデータありき』

自然を相手にする遊び・学問に共通するスタンスだ。観察し収集した膨大なデータからある法則を見出す。古来より伝わる天気俚諺はこの典型だ。先人は偉大である。が、その法則を疑ってかかってみることから大袈裟に言えば科学が始まるわけで、あらゆる進歩理論も生まれる。例えば、どんなに笑われようとも勇氣を持って、真冬にヒゲセットを打つてみる。そこで得られた新しいデータ。新旧のデータを比較して形成される推論。検証する過程で得られるさらに新しいデータ…この繰り返し。ちっぽけな人間が自然を型にだめようとする愚かな行為だとはいふも承知。

理論はどつあがいても「後付け」の域を出ることはないが、ここまでくるとそんなことはどうでもよくなる。データが先でも理論が先でもどつちでもいい。すでに楽しい楽しいメビウスの輪が目の前に広がっているからだ。僕がよく言う「正解がor存在自体が」ないパズル」とはこのことだ。

「経験がたくさんないと釣れない」のでは「ツマラナイ」。これが僕の発端だった。

結果として釣り三昧の日々を数年間送ったので、普通の人の一生分の経験は積んでしまつたが、当時の僕の頭の中を常に支配していたのはこの気持ちだった。たつた今書いたように、経験則を身につけるためにも理論を構築する上でも経験は必要だ。しかし重複する無駄な経験を省くことが出来れば効率がいい。さらに、出来ればあまり経験則に頼らずに、方程式ですべての未知の地合に挑みたいという傲慢な僕だったが、限られた時間をいかに有効活用出来るかは真剣に考えた。当時の僕が実践していた練習方法は、いすれ取り上げてみたい（もうすでに書いたかな？ なんて連載も50回を数えちゃつたんで記憶が曖昧です）。

…と、おもいつきり脱線。

「ヒゲセットは、固形セットよりも活性が高い地合で選択する釣り方」という認識が一般的であるなら、岡田君の「ダンゴで80kgならセットで80kg」は、ヒゲセットを指すのではないかと想像がつく。さらに「ダンゴで60kgから、

「ダンゴでも問題なく釣りになるような、高活性時におけるセット釣り」*。

…という前提ということになる。だから何も岡田君と僕の会話を目にしていなくても冷静に考えれば「スーパースターの異次元の釣りである」と、スルーしなくて済む。

〈イメージ〉

「渋いの」に80kgを叩き出す→凡人ダンゴ20kgで岡田君60kgセットなら80kg→その差60kg！ハイハイ、「メンナサイ」

「岡田君でバクバク状態！→凡人会心の釣りで60kg岡田君で80kg→その差20kg。何とか埋めたいなあ…」

たつたの？20kg。されど20kg。この差を埋める工夫はどこにあるのか。僕なりに考えてみた。

まず、ちよつと逆戻りだと感じるかもしれないが、基本的には「ダンゴへ食いませないへらを狙うためのセット」という考え方は間違ではないと見直すことから始める。

岡田君で問題なく釣れている地合でも、エサの周りに寄っているへらの活性には、それぞれに固形差があるという認識。全てがダンゴの芯を食べる活性を持ち合わせているわけではないということだ。これがまず重要。以前「脳内セット」で書いた、「ダンゴでモタモタしている間にセットでやや遠巻きのへらをバタバタ」という感じよりは、今回の方がダンゴへの反応がいい地合をイメージして書いているが、同じことだ。だいたい、「モタモタ」の感じ方は人それぞれ。時間20分で感じる人もいれば、5枚でやつと感じる人もいる。つまり、「シブった」という線引きはどこでされるのか？ということだ。空振りも必要経費という考え方でいけば、10投打つて5投乗れば、渋いどころかバクバクだ。野球ではないが、3割4割のヒット率でも十分絶好調なのだ。

ここで、空ぶつた全ての投が、地合維持のために本当に必要な経費なのか？ということも考えてみる。状況によっては、空振りの半分が地合維持で、残りの半分は本当に無駄な空振りかもしれない。誰しもがエサを合わせ

「浅ダナスタイル・ワイドプラス」

杉山作

七番	10	7.5
八番	11	7.5
九番	12	7.5
十番	13	7.5

※トップは内径1mmパイフトップ
ボディは5.5mm径一本取り
1本¥6,300(税別)

発表以来、絶大な支持を得ている「浅ダナスタイル・ワイド」のビッグサイズ版、登場。
バランスはそのままに、サイズ、ボディ、トップにボリュームをプラス！

取り扱い店〈五十音順〉
埼玉・越谷 かわせみ (048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (03-3499-5025)
埼玉・入間 へらの三水 (042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほの (0285-72-2215) 神奈川・川崎 鮎仙人 (044-287-7470)
東京・吉祥寺 丸勝 (0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (0428-22-2467)



不精ヒゲを剃らずにきた江成。たっぷり寝た（寝坊した）証拠である。「だって、ヒゲをやるのにヒゲ剃っちゃったら釣れないべ？」んなアホな話があるかい！



「えなヒゲセット」が唸る！（へちで）

てヒット率向上を狙うが、活性の向上がそれ以上見込めない・へらの活性に固差があり過ぎる場合、下手にいじらない方がいいケースだ。ここでもセットにし、活性の違いに応じて、上下お好みのエサを食べていただくという調子のいい発想はどうか。いわゆる「どっち食ってもいい」というヤツだが、岡田君と共に、今までさんざんダメだと書いてきた。どちらかを食わせるようにしかバラケを調整出来ないのだ、と。しかも活性の高い方のへらが、開かないものに対する無用なカラッソ（押し・ぶつかり）を出す可能性があるし、低い方のへらはダンゴの芯は食えないまでもそれなりにバラけるものを追っており、ノーバラケの粒子には「見向きもしない（反応がない）」かもしれない。そのため、「どっち食ってもいい」「つもりが、「どっちつかず」で終わってしまう」と断じてきたのだ。が、僕は今までこの

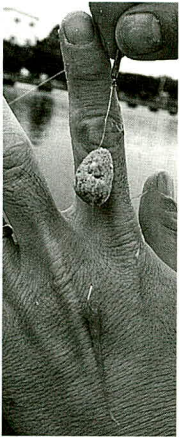
テの話をする時に、常に固形物をイメージしていた（ヒゲから逃げていた僕は、全くの無意識だった）。今、ここでヒゲに置き換えて考えてみると、クワセとして積極的に意識しない「カスミ」であるヒゲには、「無用な押し・ぶつかりを引き起こす心配」がない。クワセとして意識しないのだから、「見向きもしない（反応がない）」という心配もない。完全なるダンゴ地合（誰が見ても明らかにダンゴ地合）で、迷いなく打てるセットなのだ。では、上バリのバラケを食わせることに専念すればいいかと言えば、それは当然ノー。先月号で気付いたとおり、食わせるのは「バラける粒子」なのだ。現在のヒゲセットにおいては、完全なダンゴタッチではヒゲと絡まないため、カスミとしての役目を果たし切れない。「パワー系」と呼ばれる、バラケらしいバラケを用いたヒゲセットが主流になりつつあることを見ても、それはおそろしく間違いないだろ

う。「バラける粒子」にターゲットを絞ってあげば、粒子のみ追うへらはヒゲを、とびきり活性の高いへらは抜け切る前のバラケの芯を食ってくる。中間のエサ合わせをすることで、両極取りが可能になるという、ものすごくウマイ話なのだ。そしてそれがハマった時、ダンゴを凌駕するセットとなる。椎の木湖の午後、自分の切り札とすべく、僕は本気でセッティングを探っていた。次回はその辺を書いてみたいが、ちょっと未定（原稿放棄の可能性大）。

ターゲットを中間に設定するというのは勿論、固形セットにおいても可能だ。

たまに落ち込みでバラケを食ってくるへらを見て、「いいへらが来た」と認識した経験は誰にもあるだろう。活性の違いに応じたへらの食いが存在する証拠である。暖季でも固形への嫌な反応がない池や、寒季でもフィッシングプレッシャーが極めて低い状況下では、有効かもしれない。要は迷いなく釣りを選択出来ればいいので、他人がまだまだダンゴでいけると判断しようが、とっくにセットの地合だと判断しようが、ウドンよりヒゲだと判断しようが、自分が感じたへらの状態と自分の技量との折り合いで決めれば良い。線引きするのは自分だ。

★岡田氏のコメントにあるように、例えば羽生吉沼では「ダンゴでも問題なく釣りになるような高活性時」においても、固形物への反応がすぐる良いということになる。



権力。

6月号の里ちゃんの前フリで、「江成が出世しちゃった」とありますが、正式にはまだ出世はしてません。僕の直属の上司がさらにひとつ上へ上がるという話があって、「それなら次はオマエに」と勝手に言ってるだけです。上司の異動の話自体、正式な辞令が出ているわけではないんです。ただ、上司はノリノリで、本来やるべき仕事のかなりの部分を、「練習」といって僕に投げてきています。当然ながら、まだ僕はヒラの身分のままなので、管理者としての手当ても付きません。とまあ、実はこのようにとんでもない話なんです。ただ、その上司は上司で、自分が次にやるべき仕事の「練習」を真剣にやっているようではあるので、「ま、いっか」と引き受けています。

このままでは「とつてもお人好し」という話になってしまいますが、もちろん「ま、いっか」で済ませられる理由は他にもあります。管理者としての手当てが付かなくとも、給料が若干ながら上がることになるからです。それはなぜか説明しましょう。

ウチの場合、管理者といってもブレイイングマネジャーなので、例えばカッコ良過ぎますが（笑）、スワロースの古田敦也選手のように現場へ出ます。管理者としての仕事は山盛りあるので、皆と全く同じ仕事量は難しいと考えるのが普通ですが、実はそうでもないんです。権力を求める輩が後を絶たないのはこの世の常です。「おいしいとこだけつまみ食い」という横暴がまかり通ります。ウチの仕事の場合、「おいしいとこ」には時間的な面も、収入面も比例してメリットがある傾向ですので、「短時間で作業が終わる→日中に自分の時間が作れる→しかも給料も上がる」で、とてもウ

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに
転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合
は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

柴舟(東京都江戸川区)

03-3613-2727

佐伯釣具店(神奈川県川崎市)

044-911-3722

SANSUI川づり館(東京都渋谷区)

03-3499-5025

フィッシング中原(神奈川県川崎市)

044-711-8266

鮎仙人(神奈川県川崎市)

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail: info@office27.com

マリーな話なのです。今回、仕事を振るかわり、上司は僕にも特別な配慮をしてくれました。ここで問題になるのは残ったメンバーの仕事配分です。チームの中で二人も「おいしいとこ取り」をするということになりますので…あとはご想像にお任せ致します(笑)。

入社11年目にしていよいよサラリーマンらしくなってきました。ホントのヒラの方が文句だけ言っていればいいので楽ですね…

日中に時間は作れても、やはり皆より遅くまで会社に残るようにはなりません。延びたサービスクラス時間上がった給料を割ってみれば、ちっとも面白い話ではありません。が、その時間を他で買ってもらえるわけじゃなし、かわいい息子達のことを思えば、1円でも多くの給料を持ち帰ってやりたい。ならば、時給は計算してはならない。…僕も変わりました。ただ、深夜の帰宅&休日出勤が続きますと、子供達と会わない日も続くわけです。以前自分で書いたとおり、「家族を思うばかりに家庭崩壊へまっしぐら」ってことになるんでしょうか? …でもこれって、奥さんのフオリ次第だと思っただけです。いつも厳しい大蔵大臣としてしか書かれないウチの女房ですが、かなり古いところがあって、夏場でも

いや～江成アニキを持ち上げつつの取材、疲れましたねえ。

でも接待のおかげで今回は原稿早かったっす。

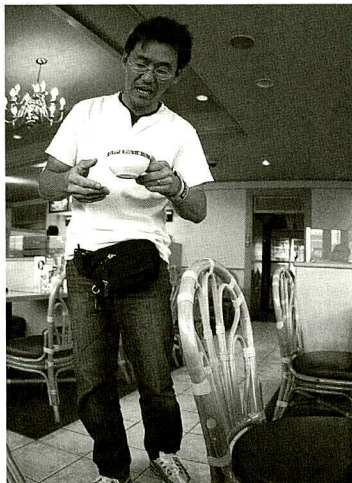
「1日釣りをやって疲れもへたくれもあるかっ!」

というお叱りはナシでお願いしまーす!?

そうそう、今回江成が釣った枚数は62枚で当日のトップ!でも重量が伸びずに残念ながら5位…。里は59枚40kg強で2位! 皆さん、今回の結果、どう思います? (ちなみに平日で空いていたとはいえ、それでも100人前後の入場者。椎の木湖の人気程が窺い知れよう…)

次回もヒゲセットで白黒つけるぞ! …とききたいところですが、アニキは7月は忙しいらしく…。また里が書くことになるのか? それだけは勘弁して下さいよ～!!

by里ちゃん



「ヒゲ大好き!」

恒例の「釣りの後のファミレス」でのノウガキ大会。里に負けたくせに、アニキは延々2時間、ノウガキをタレまくった。聞き役も大切な「接待」のひとつ…。そして、「スーパー」でスリキリ満タン入れを繰り出し、復路、床にタラしくって店員のオネーサマに白い目で見られていた。サラリーマンの悲しい性である…

訂正「先月号102ページ2段目後半」

時間もなくては何でいじるんじゃポケ〜!! 微妙に雰囲気が変わっちゃうじゃねえか〜! by江成

オリジナル

「間違っって食うなどという消極的なものではない、積極的な、などという形容詞を付けたところで納得出来ん」

里ちゃん訂正版

「間違っって食うなどという消極的なものではないが、かといって積極的な、などという形容詞を付けたところで納得出来ん」

「そんなに変わらないと思うんですけど…ていうか、アニキのオリジナル、よく分からん文体になつてると思うんですけど…。恐るべし! エナワールド…」

by里ちゃん

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける

へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

夏、豪快に遊ぶ!

8

ビッグニュース! 未開の湖、福島県・檜原湖で 棚網久が48・5cmをキャッチ…!!



“新潟の巨星”小柳康秀大暴れ!
18尺浅ダナ in 友部湯崎湖。
軽系両ダンゴで数を釣りまくり、
締めはペレ宙でキロアップ連発…!!

読んで興奮! トーナメントレポート!!

- パリバス・グランカップへらトーナメント2006 in 富里乃堰
今年一発目の“メジャー”は、荒れに荒れる!
NEWチャンプ太田武敏の必勝パターン速攻公開!!
- NEO-HERA PRO LEAGUE 2006 第一戦 羽生吉沼
メーカーの枠を超えた新時代トーナメント、今年も発進。
連載:田辺哲男&小林恭之「問答無用へらツアー」連動でレポート!
- HERA-1 GP in 隠れ谷池
竹竿の里で繰り広げられたビッグトーナメント。
連載:中澤 岳「フィールド真っ向勝負」連動でレポート!
- シマノへら釣り競技会:野釣り一本勝負!! in 三名湖
シマノの新提案「野釣りトーナメント」の結果を速報!

豪快な長竿両ダンゴ

特集

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
 第41巻第8号（毎月1回1日発行）
 平成18年8月1日発行

浅草へら鮎会の名手

大内磐舟、 段差釣りの 核心



“バラケに「一発」”の段差釣り。
 野釣りの食い渋り状態では、
 驚くべき威力を発揮する釣り方である。
 名門・浅草へら鮎会で、年間上位に食い込んでいる、
 大内磐舟も、この釣りの名手のひとり。
 「段差バラケ」をメインにした、
 強力なバラケでの攻めのスタイル。
 それこそが、彼の勝負強さを支えている、
 段差釣りの核心なのだ。



●段差バラケ 750g



●一発 (小・極小・マイクロ)

大内磐舟のバラケエサ
 基本パターン

「段差バラケ」400cc+
 「バラケマツハ」400cc+
 「鬼バラ」400cc+
 水250cc

浅ダンゴ
 深宙
 共用

※魚が上調子のときは「ダンゴの底釣り夏」を一握り加え、バラケをしっかりとタナまで持たせる。また、エサのネバリを取るために「軽さなぎ」を適量加えることもある。

定価 1000円
 本体九五二円

丸マルキュー株式会社
 〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
 合わせ 四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
 ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
 Eメール・ホームページ
<http://www.marukyu.com/>

丸マルキューへら鮎メールマガジン、大好評配信中!!

マルキューでは、耳寄り情報満載のメールマガジンを無料配信します。
 配信登録の方法など、詳細についてはマルキューホームページをご覧ください。→

<http://www.marukyu.com/>

雑誌 07907-8



4910079070865
 00952